

Objektyp: **Appendix**

Zeitschrift: **Veröffentlichungen des Geobotanischen Institutes der Eidg. Tech. Hochschule, Stiftung Rübél, in Zürich**

Band (Jahr): **98 (1988)**

PDF erstellt am: **03.07.2024**

Nutzungsbedingungen

Die ETH-Bibliothek ist Anbieterin der digitalisierten Zeitschriften. Sie besitzt keine Urheberrechte an den Inhalten der Zeitschriften. Die Rechte liegen in der Regel bei den Herausgebern.

Die auf der Plattform e-periodica veröffentlichten Dokumente stehen für nicht-kommerzielle Zwecke in Lehre und Forschung sowie für die private Nutzung frei zur Verfügung. Einzelne Dateien oder Ausdrucke aus diesem Angebot können zusammen mit diesen Nutzungsbedingungen und den korrekten Herkunftsbezeichnungen weitergegeben werden.

Das Veröffentlichen von Bildern in Print- und Online-Publikationen ist nur mit vorheriger Genehmigung der Rechteinhaber erlaubt. Die systematische Speicherung von Teilen des elektronischen Angebots auf anderen Servern bedarf ebenfalls des schriftlichen Einverständnisses der Rechteinhaber.

Haftungsausschluss

Alle Angaben erfolgen ohne Gewähr für Vollständigkeit oder Richtigkeit. Es wird keine Haftung übernommen für Schäden durch die Verwendung von Informationen aus diesem Online-Angebot oder durch das Fehlen von Informationen. Dies gilt auch für Inhalte Dritter, die über dieses Angebot zugänglich sind.

日本の潜在自然植生図

Potential Natural Vegetation Map of Japan

凡例 Legend

コケモモトウヒワクス (高山、亜高山帯)
Vaccino-Piceetea (Alpine, Subalpine and subarctic conifer forest zone)

- 1 コケモモヘビマツ群集 (コケモモトウヒワクス帯の高山帯植物群落を含む)
Vaccino-Picea hebi-matsu (incl. alpine-ecotone forest, wetland grassland etc.)
- 2 エゾマツ群集 (エゾマツトウヒワクス群集)
Picea japonica
- 3 シラビソトウヒワクス (シラビソトウヒワクス群集)
Abies-Picea
- 4 ダケカンバトウヒワクス (ダケカンバトウヒワクス群集)

ブナクス (夏緑広葉樹林帯)
Fagetea orientalis (Summergreen broad-leaved forest zone)

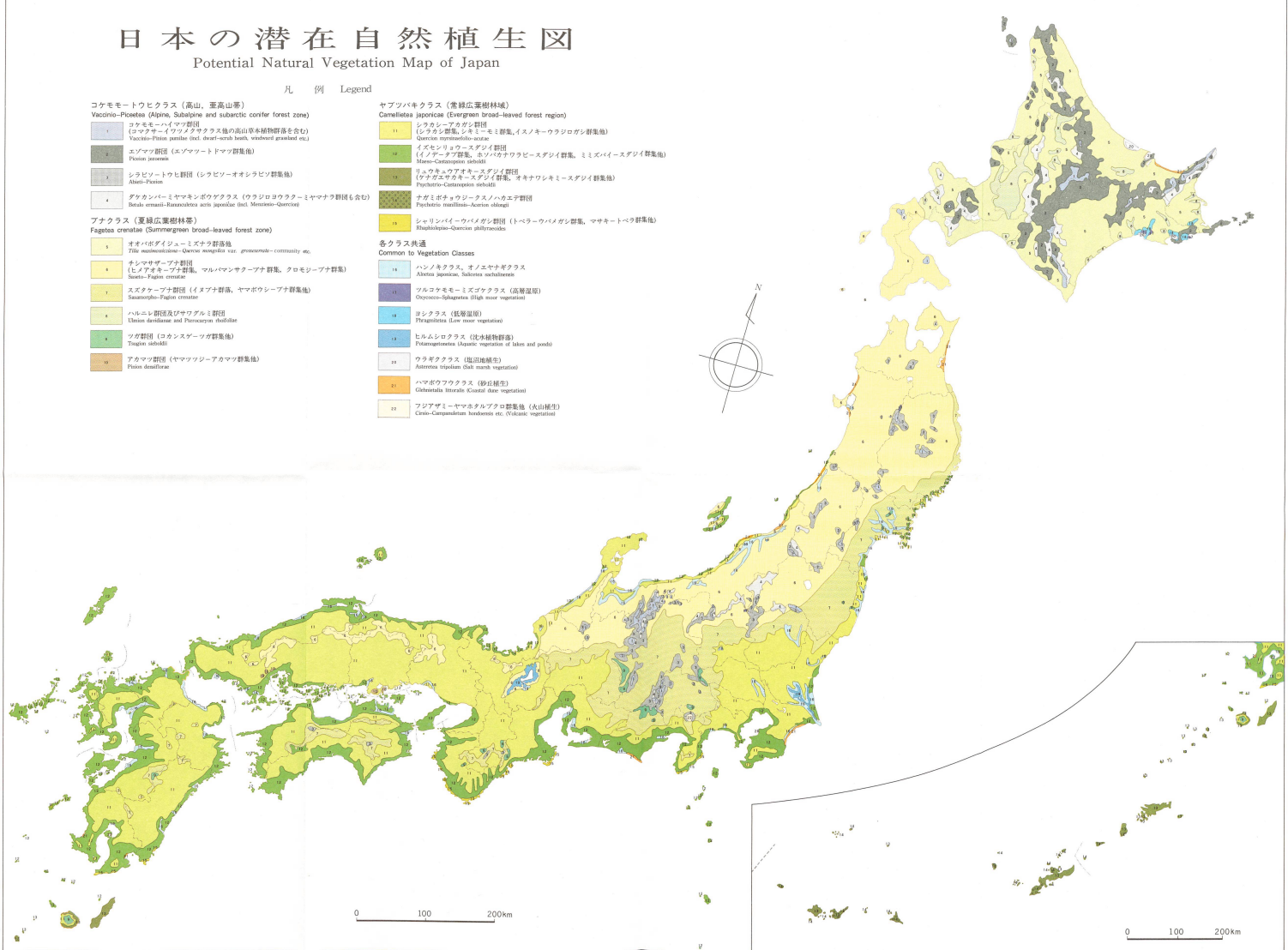
- 5 オオノボダイジュミズナギ群集
Fagus sylvatica-Quercus mongolica var. prinusoides-compositae etc.
- 6 キシマサザブナ群集 (ヒメノボダイジュ群集、マルバヤナギ群集、クロモジブナ群集)
Quercus-Fagus orientalis
- 7 スズカサザブナ群集 (イメナブ群集、ヤマボウシブナ群集)
Quercus-Fagus orientalis
- 8 ハルニレ群集及びサワグルミ群集
Fagus sylvatica and Pterocarya dissoluta
- 9 ツグミ群集 (コナラ群集)
Fagus sylvatica
- 10 アカマツ群集 (ヤマツツジブナ群集)
Picea densiflora

ヤブツバキクス (常緑広葉樹林帯)
Carneliotea japonica (Evergreen broad-leaved forest region)

- 11 シラカシ群集、シキミ群集、イヌノキウラシカシ群集
Quercus monembioides-acuta
- 12 イズミシラカシ群集
Macro-Carpinus sibirica
- 13 イヌノキウラシカシ群集、シラカシウラシカシ群集、ミズバネイヌノキ群集
Carpinus-Carpinus sibirica
- 14 ナガミボウシ群集、ノハカエダ群集
Psychotria mollissima-Acorus stolonatus
- 15 シヤリンイヌノキ群集 (トベラウイヌノキ群集、マサキトベラ群集)
Rhusalpina-Quercus phillyraoides

各クラス共通
Common to Vegetation Classes

- 16 アノミクス (アノミクス群集)
Alnus japonica, Sakonai suchianensis
- 17 ツルコケモモミズナギクス (高層湿原)
Oxycoce-Sphagnum (High moor vegetation)
- 18 シラカシ (低層湿原)
Phragmites (Low moor vegetation)
- 19 ヒロムシラカシ (池沼植物群落)
Potamogetonetes (Aquatic vegetation of lakes and ponds)
- 20 ウラギクス (塩沼植物群落)
Asterionia tripartita (Salt marsh vegetation)
- 21 ハマボウフクス (砂丘植物群落)
Galatula littoralis (Coastal dune vegetation)
- 22 フクアサミヤマツクス (火山植物群落)
Green-Campylopusium (Volcanic etc. Grassland vegetation)



By Akira Miyawaki, Shigetoshi Okuda, Kazue Fujiwara, Kunio Suzuki and Yasushi Sasaki.
Inst. Environmental Science and Technology, Yokohama National University

宮崎 昭・奥田重俊・藤原一純・鈴木邦雄・佐々木 亨
横浜国立大学環境科学センター

潜在自然植生図 (potential natural vegetation map) とは……

裸の大地を被っている、生きている緑の皮膜が植生と呼ばれる。植生 (vegetation) とは生物共同体 (biocoenose) の植物から成り立っている部分の総称である。植生を時間的に見るとき、現に存在している植生を現存植生 (actual vegetation) という。かつて人間が他の生物とは異なった本格的影響を自然に与える直前、または与えはじめた時の植生を、原(始)植生 (original vegetation) と呼ぶ。ところが、日本をはじめ世界の文明国のように、長い時間の流れの間に植生やその生育地に様々な人為的干渉が加えられている地域の現在の植生は、その大部分が様々な人間活動の影響下に変形ないしはおきかえられた代償植生 (substitutional vegetation) である。このような長い時間の経過の間に、さらには最近の大都市、産業立地のように大規模な人間の干渉下に立地条件まで変えられたようなところで、第3の植生概念として R. Tüxen 教授によって、1956年に提案されたのが潜在自然植生である。潜在自然植生 (potential natural vegetation; Potentielle natürliche vegetation) とは、文化景観域で今一切の人為的干渉を停止したら、その立地がどのような自然植生を支え得る潜在能力をもっているかという、理論的に考察し得る立地固有の自然植生をいう。したがって、自然植生域では現存植生は、そのままその立地の現在の潜在自然植生および原植生に一致する。植生の具体的配分を地図上に示したものを植生図 (vegetation map) と呼ばれる。自然環境の診断、緑の復元にも今日広く使用されている植生図には、対象とする植生によって、現存植生図、原植生復元図、潜在自然植生図などのちがいがあがる。日本の潜在自然植生図は、日本列島各地の潜在自然植生の具体的配分図で、日本の自然保護、適正な国土計画、地域計画、さらには緑豊かな環境創造の処方箋の役割りを果たす。我々は生涯の仕事として、地球的視野に立って、まず日本の植生と、その植生の研究に取り組んでいる。これらの現存および潜在自然植生図にはまだ不十分な点も多いが、第一次試案として日本の現存および潜在自然植生図の輪郭を示し内外諸賢の批判を仰ぎたい。

日本の現存植生図

Actual Vegetation Map of Japan

凡例 Legend

自然植生

森林植生 Forest vegetation

高山植生帯

高山植生帯 (高山植生帯)

コケモモ・ハイマツ群 (コケモモ・ハイマツ群)

コケモモ・トウヒ群 (コケモモ・トウヒ群)

エゾマツ群 (エゾマツ群)

オオシラビソ群 (オオシラビソ群)

ダケカンパニ群 (ダケカンパニ群)

ブナクラス域 (夏緑広葉樹林帯)

ブナ群 (ブナ群)

シマササギ群 (シマササギ群)

シマササギ群 (シマササギ群)

スズナ群 (スズナ群)

スズナ群 (スズナ群)

オオバコ群 (オオバコ群)

ハルニレ群 (ハルニレ群)

ヒメシャラ群 (ヒメシャラ群)

ツツ群 (ツツ群)

ヤブナギクラス域 (常緑広葉樹林帯)

ヤブナギ群 (ヤブナギ群)

イヌシラカシ群 (イヌシラカシ群)

イヌシラカシ群 (イヌシラカシ群)

草本植生 (各クラス域共通)

ツルコケモモ・ミズゴケ群 (ツルコケモモ・ミズゴケ群)

コシクサ群 (コシクサ群)

ヒルムシロ群 (ヒルムシロ群)

ウラボシ群 (ウラボシ群)

ハワボク群 (ハワボク群)

フジアザミ群 (フジアザミ群)

代償植生

コナラ・ミズナラ群 (コナラ・ミズナラ群)

シラカシ群 (シラカシ群)

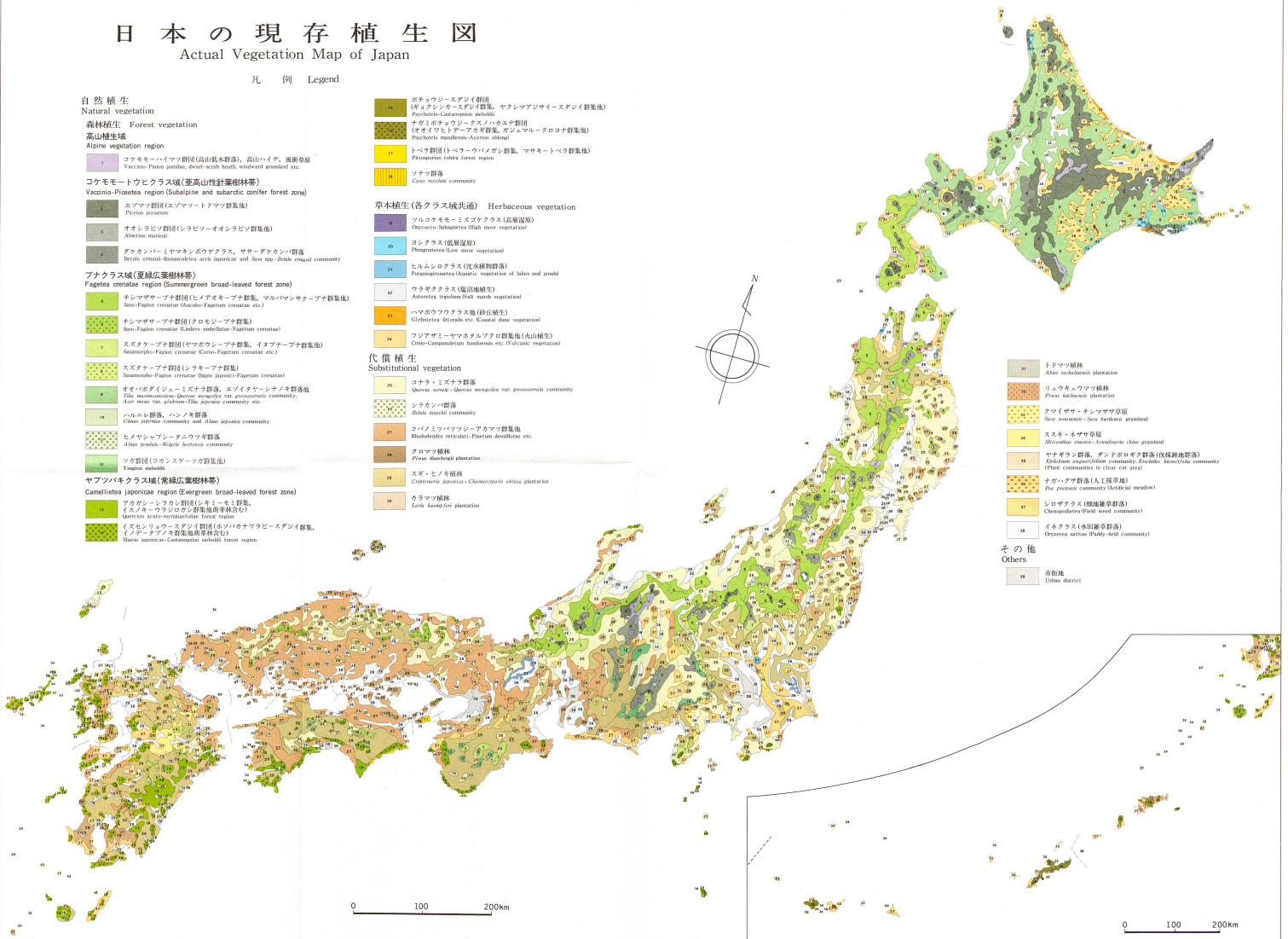
コナラ・ミズナラ群 (コナラ・ミズナラ群)

クサキ群 (クサキ群)

スズナ群 (スズナ群)

カラマツ群 (カラマツ群)

- トドマツ植生 (トドマツ植生)
- リュウキュウマツ植生 (リュウキュウマツ植生)
- クワイヤサ・シマササギ (クワイヤサ・シマササギ)
- ススキ・ネササギ (ススキ・ネササギ)
- セナギラン群 (セナギラン群)
- ナグハツ群 (ナグハツ群)
- シロガサ群 (シロガサ群)
- イネクラス (イネクラス)
- 市街地 (市街地)



Edited by Akira Miyawaki and Shigetoshi Okuda, Co-worker Noriaki Anai
Inst. Environmental Science and Technology, Yokohama National University

室輪 昭・奥田重俊 協力 穴井法明
横浜国立大学環境科学センター

現存植生図 (actual vegetation map) とは……

我々が現地で直接眼で見、手で触れることのできる植生が、現存植生 (actual vegetation) と呼ばれる。大地を被い、一見無秩序に生育しているように見える植物の集り——植生——に単位性をもたせるときに、それを植物群落 (plant community) という。植物社会学的には種の組み合わせ (species combination) を基礎として群落単位が決定される。群集 (association) を基礎単位として、群団 (alliance)、オーダー (order)、クラス (class) へと順次上級単位にまとめられる。現地における数多くの植生調査資料を群落組成表の比較検討によって、科学一般に用いられる抽象化の手続をふんで得られた群落単位を地図上に描いたものが植生図と呼ばれる。

現存植生の具体的な配分を地図上に描いた現存植生図 (actual vegetation map) は、現在における植物群落の具体的な配分図である。したがって、現時点における植生とその配分、分布の科学的な document であるばかりでなく、植生を指標とした、生命集団の側からの総合的な環境、すなわち環境質 (quality of environment) や、その変化の具体的な現状診断図の役割も果たす。

日本列島のように古くから文化が発達しており、さらに最近国土開発や産業開発、都市化の進んでいるところでは、現存植生は、自然環境に様々な人為的影響が加わって、一部の残されている自然植生から種々の代償植生まできわめて複雑に錯綜している。したがって、小縮尺の現存植生図化は、きわめて困難であった。

この“日本の現存植生図”は、現地で得られた各植生単位をできるだけまとめて、上級単位や複合単位として描かれた。現時点における日本の国土の緑の現状が、植生の質の違いを通して具体的に提示された資料である。同時に“日本の潜在自然植生図”と比較・考察することによって、現代における日本の植物的自然の変貌の実態が概観できるはずである。

